

令和 6 年 4 月 3 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00431

研究課題名(和文) 19世紀後半以降のフランスにおける 集合住宅文学 に関する研究

研究課題名(英文) A Study on "Collective Housing Literature" in France since the Late 19th Century

研究代表者

塩塚 秀一郎 (Shiotsuka, Shuichiro)

東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授

研究者番号：70333581

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：リュト・ジルベルマン著『パリ10区サン=モール通り209番地 ある集合住宅の自伝』(2020)が、現実志向と遊戯性を併せもつペレックとどのような関係にあるのかを考察した。ペレックの小説において、通時的共同体の出現はウリポ的制約の適用と無関係でないこと、また、ジルベルマンは被調査者において感情の暴発を避けるためにドールハウスの家具を用いながらインタビューをすすめているのだが、そのことがウリポの制約がもつ「感情の制御」という機能に通じていることを示した。つまり、『サン=モール通り209番地』は、『人生 使用法』を実存のおよび遊戯的という両面において後ろ楯としていると結論できる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『サン=モール通り209番地』の日本語訳を行い、15000字におよぶ解説を付し、本作の「集合住宅文学」としての意義を明らかにした。ジルベルマンのルポルタージュにおいて感動的なのは、209番地の建物が「目印となり、出発点となり、起源となる」場所として提示されていることなのだが、この建物は、近親者の故郷であるだけでなく、「空間の力だけで幾歳月を越えて生き続ける一族」の故郷ともなっているのである。このような通時的共同体の出現が、ウリポ的制約の適用と無関係でないことや、近年の日本における集合住宅小説とも共通する傾向であることを示した。

研究成果の概要(英文)：This study examines the relationship between Ruth Zylberman's "The Autobiography of an Apartment Complex, 209 rue Saint-Maur, Paris 10" (2020) and Perec, who is both reality-oriented and playful. I showed that the emergence of a diachronic community in Perec's novel is not unrelated to the application of oulipian constraints, and that Zylberman's use of dollhouse furniture in the interviews to avoid emotional outbursts among his subjects is in keeping with the "emotional control" function of oulipian constraints. This is a function of the "emotional control" of Oulipo's restrictions. In other words, we can conclude that "209 rue Saint-Maur" is both an existential and a playful response to "Life A User's Manual".

Translated with www.DeepL.com/Translator (free version)

研究分野：フランス文学

キーワード：集合住宅 調査の文学 ルポルタージュ 遊戯性

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

ペレック『人生 使用法』とジルベルマン『パリ 10 区サン=モール通り 209 番地』には、集合住宅を共時的に捉えるのみならず、通時的に捉える視点があり、そこでは、ひとつのアパルトマンの先代住人、先々代住人がつねに話題となる。このような場所の通時的共有によって、個別的な事象が集団的ないし普遍的な事象へと昇華されているのである。『パリ 10 区サン=モール通り 209 番地』においては、ユダヤ人迫害のためごく幼い頃に集合住宅を離れざるを得なかった元住人が、数十年ぶりに建物を再訪した際、ホロコーストで亡くなった自分の母親もまた、209 番地の正門の把手に触れたのだと思い涙ぐむ逸話をはじめ、ジルベルマンは場所の通時的共有によって生まれる絆をしばしば喚起している。書物の末尾に描かれる現住人と元住人の交歓会においては、彼らのあいだにすぐさま共感が生じている様子を見て、ジルベルマンは「空間の力のみによって年月を貫いて生じる不思議な血統」が生まれつつあることを実感するのである。『人生 使用法』および『パリ 10 区サン=モール通り 209 番地』にみられる場所の通時的共有が、現代における共生の試みにいかに寄与しうるか、日仏の現代小説なども視野に入れつつ考察することを企図した。

### 2. 研究の目的

本研究は、近現代のフランスにおける「集合住宅を舞台とする文学作品」の系譜的読解を通じて、他者の集合がいかにしてともに生きる ことが可能となるのかという、古くて新しい問題を再考し、人間同士の繋がり方に新たな可能性を提示することを目指す。集合住宅は社会の縮図であり、ときに一時代、一社会の抱える問題が先鋭的に現れる場となる。とかくその孤立性や没交渉が指摘され、画一的な間取りが批判されがちな集合住宅であるが、まさにその画一性こそが、時を共有する隣人同士、そして、部屋を共有した歴代の住人同士のあいだに、体験や記憶の共有に基づく共感や連帯を生み出しうるのである。本研究では、19 世紀後半から現在までの代表的な「集合住宅文学」数点を対象とし、集合住宅という建物がえぐり出す諸問題を時代ごとの文脈において分析することで、場所の共有を介して出現する他者との葛藤と連帯のあり方を多面的に明らかにし、孤立に苦しむ現代社会においてともに生きる ための手がかりを提供する。

### 3. 研究の方法

ペレックの『人生 使用法』に想を得ながら、フィクションではなくドキュメンタリーの領域で「集合住宅文学」にあらたな可能性を切り開いたのが、作家・映画監督のリュト・ジルベルマンによる『パリ 10 区サン=モール通り 209 番地 ある集合住宅の自伝』(2020)である。この書物は、パリ 10 区のありふれた集合住宅の、19 世紀後半の建築時から 21 世紀の現在に至る歴史を、さまざまな記録文書や住人、元住人らの証言をもとに再構成したドキュメンタリーである。何の痕跡も残さなかった平凡な人々の生を再現する試みであるから、カルロ・ギンズブルクやアラン・コルバンらによって展開されたマイクロヒストリーの一種とも見なしうる。したがって、ペレックの場合と同じくジルベルマンにおいても、「社会批判」よりも「個人の生」に重点が置かれていると言えよう。だが他方で、「建物の歴史」をたどる過程では、ひとつのアパルトマンに住んでいた歴代の住人と数珠つなぎに連絡を取る必要性が生じ、彼らのあいだに葛藤や連帯が存在することが明らかになる。つまり、ジルベルマンにおいては、集合住宅が浮かび上がらせるのは、「個人の生」のみならず、ひとつの空間の共有のみによって結びついた緩やかな共同体のあり方なのだ。このように、19 世紀後半から現代に至るまで、集合住宅という建物を通して表象される人間のあり方は、「社会の縮図」から「個人の生」を経て再び「緩やかな共同体」へと変化している。本研究では、時代背景や文学の機能の変化と併せて以上のような変遷をより詳細に考察することによって、場所の共有を介して出現する他者との葛藤と連帯のあり方を明らかにし、現代的共生への手がかりを探るものである。

### 4. 研究成果

ウリポ文学の精華とも言うべきペレック『人生 使用法』と同じく、集合住宅という舞台を共有する「調査の文学」の最新の成果のひとつ、リュト・ジルベルマン著、『パリ 10 区サン=モール通り 209 番地 ある集合住宅の自伝』(2020)において、遊戯性と現実志向というペレックの二面性がいかに現れているかを考察した。この作品は、ある集合住宅をめぐるルポルタージュという意味では「調査の文学」の一例であるが、実存的制約が用いられているわけではない。『人生 使用法』と枠組みを共有してはいるが、ウリポ的な言語遊戯を共有しているわけではない。この作品が、二面性をもつペレックとどのような関係にあるのかを考察した。ペレックの小説において、通時的共同体の出現はウリポ的制約の適用と無関係でないこと、また、ジルベルマンは被調査者において感情の暴発を避けるためにドールハウスの家具を用いながらインタビューをすすめて

いるのだが、そのことがウリポの制約がもつ「感情の制御」という機能に通じていることを示した。つまり、『サン=モール通り 109 番地』は、『人生 使用法』を実存的および遊戯的という両面において後ろ楯としていると結論できる。また、研究期間全体の成果として、『サン=モール通り二〇九番地』の日本語訳を行い、15000 字におよぶ解説を付し、上記のような考察をも盛り込んで、本作の「集合住宅文学」としての意義を明らかにした。ジルベルマンのルポルタージュにおいて感動的なのは、209 番地の建物が「目印となり、出発点となり、起源となる」場所として描写されていることなのだが、この建物は、近親者の故郷というだけでなく、「空間の力だけで幾歳月を越えて生き続ける一族」の故郷ともなっているのである。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 7件/うち国際共著 6件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Shuichiro SHIOTSUKA	4. 巻 no.345
2. 論文標題 Le quotidien et la violence : le paysage urbain chez quelques ecrivains francais contemporains	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Revue des Sciences Humaines	6. 最初と最後の頁 45-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4000/rsh.595	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Shuichiro SHIOTSUKA	4. 巻 no.7
2. 論文標題 "Vies imaginaire" de "fous litteraires" chez Nerval et Queneau	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Revue Nerval	6. 最初と最後の頁 55-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 塩塚秀一郎	4. 巻 24
2. 論文標題 ジュリアン・グラック『ひとつの町のかたち』における変化の肯定 モニュメントと空き地をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文学と環境	6. 最初と最後の頁 30-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Shuichiro SHIOTSUKA	4. 巻 14
2. 論文標題 Bioy Casares, source de l'imaginaire lipogrammatique	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Cahiers Georges Perec	6. 最初と最後の頁 313-322
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Shuichiro SHIOTSUKA	4. 巻 5
2. 論文標題 La potentialite des voyages contraints : Bon, Gracq, Butor	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Contemporary French and Francophone Studies	6. 最初と最後の頁 648-656
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Shuichiro SHIOTSUKA	4. 巻 13
2. 論文標題 La tutelle de La Vie mode d'emploi de Georges Perec dans 209 rue Saint-Maur de Ruth Zylberman est-elle ludique ou existentielle ?	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Quetes litteraires	6. 最初と最後の頁 154-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.31743/ql	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Shuichiro SHIOTSUKA	4. 巻 15
2. 論文標題 Qui decrit l'ile de W : voix et silence dans W ou le souvenir d'enfance	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Cahiers Georges Perec	6. 最初と最後の頁 93-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 塩塚秀一郎
2. 発表標題 物語の彼方と手前 : クノーとペレックにおけるフロベールの遺産
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会 2021年度春季大会ワークショップ「生誕200年 フロベールを読み直す」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 塩塚秀一郎
2. 発表標題 調査の文学と集合住宅という装置：現代文学の結節点をめぐって
3. 学会等名 「文学としての人文知」第8回「文学を問う知 / 知を問う文学」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shuichiro SHIOTSUKA
2. 発表標題 Techniques oulipiennes et enjeu existentiel : le cas du Tramway de Claude Simon
3. 学会等名 Colloque Cerisy L' Oulipo : generations (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shuichiro SHIOTSUKA
2. 発表標題 Le reflet de l' ambivalence de Lieux dans La Vie mode d' emploi
3. 学会等名 Colloque Les Lieux de Georges Perec (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 松澤和宏 + 小倉孝誠編 (p.323-339を塩塚秀一郎が担当)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 402
3. 書名 フローベール 文学と 現代性 の行方	

1. 著者名 塩塚秀一郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 230
3. 書名 レーモン・クノー 与太郎 的叡智	

1. 著者名 塩塚秀一郎	4. 発行年 2024年
2. 出版社 書肆侃侃房	5. 総ページ数 269
3. 書名 逸脱のフランス文学史 ウリポのプリズムから世界を見る	

1. 著者名 ジョルジュ・ペレック、塩塚秀一郎訳	4. 発行年 2024年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 244
3. 書名 増補新版 さまざまな空間	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------